

龍野高出身、早大で活躍 箱根駅伝4回出場 井戸浩貴さん

競技生活語り 後輩にエール

毎年1月2、3日に行われる「東京箱根間往復大学駅伝(箱根駅伝)」。正月の風物詩として知られ、選手らの奮闘ぶりが多くのファンを魅了し続ける。早稲田大学で4年連続で出場し、今春、大学を卒業し、社会人になった井戸浩貴さん(23)は龍野高校陸上競技部出身。このほど姫路市内であった同部創部100周年記念式典で箱根駅伝や競技生活について振り返り、「結果を出すのは自ら考え、頑張り続けること」と語った。(河尻 悟)



箱根駅伝での思い出などを語る龍野高校陸上競技部OBの井戸浩貴さん(姫路市三左衛門堀西の町)

井戸さんはたつの市立新宮中学校時代から、県中学駅伝1区で2年連続区間賞を獲得するなど注目されていた。高校は私学の強豪校ではなく地元の進学校であ

姫路で開催の式典で講演

る龍野高校を選択した。練習量不足や長い距離への不安を克服しようと部活動の練習に加え、約8キロの道のりを毎朝欠かさず走るなど努力を重ねた。箱根駅伝出場を目標に掲げ、伝統校の早大に一般入試で進学した。スポーツ推薦で競走部に入ったエリート選手に負けず地道に練習。箱根駅伝では「公立高の星」として有力選手の中で注目を集め、すべて区間



大学生活最後の箱根駅伝で7区を走り、区間3位と健闘した井戸さん(右) 2017年1月3日、神奈川県立塚市

1桁順位を記録。3年時は9区区間賞にもなった。卒業後は住友電気工業に入社、主に経理の仕事を担当。陸上競技生活を終えたのは五輪を目指す気持ちがないからだといいい、「高校では目標だったインターハイに出られなかったが、大学では目標をかなえてやりきった」と達成感をにじませた。競技生活について「先輩たちに恵まれていたが、結果を出すのはやはり自分の頑張り次第」。陸上に取組み中高生たちに対して「自分で考える力を培ってほしい」とエールを送った。